

新年おめでとうございます。元旦早々北陸で大きな地震があり、愛知でも大きく揺れました。テレビ映像でも家が崩壊するなど大変な事態です。

自然災害は起きるときには起きますが、戦争は、人間が作るものです。ウクライナやガザの映像を見れば、日本も太平洋戦争で空爆を受けあの惨状を経験しています。

アメリカにもロシアにもあらゆる国に戦争をやめると言いたいところです。私たちの活動が「戦争をしない」「させない」活動になることを願っています。

軍事費を増やし、武器を製造輸出する国になりかけています。何とか止めたい思いです。今年は少しでも平和であることに近づける年にしたい、そのための活動です。

2024年1月2日

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会代表

梅野敏基



2024
今年もよろしくお願ひします！



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.179

2024年

1月15日

瀬戸市船町64-1

瀬戸市職労組 事務所

0561-84-4760

fax 84-4767

郵便振替口座番号

00820-9-105120

連絡先

事務局

梅野

090-3837-7050

寺脇

0572-23-5899

fax 同上

携帯

090-6575-4370

Eメール

tera-m@ob.aitai.ne.jp



ありがとう

ございました！

2024年度

会費およびカンパを頂いた方

瀬戸市

栄木房子さん

2000円

高橋満治さん

2000円

仁王隆子さん

2000円

加藤敏晴・典子さん

2000円

柴田圭基さん

1300円

上川通夫さん

1000円

尾張旭市 若杉登志美さん

1000円

豊田市 高木みどりさん

1000円

名古屋市 三谷誠一さん

2000円

川瀬まゆみさん

2000円

岡崎市 成瀬昭彦さん

3000円

一宮市 清水孝紀さん

3000円

近江八幡市

3000円

西井 義さん

1000円

神戸市 青木政明さん

10000円

2024年1月11日現在

143名 (+0-0)

143名 (+0-0)

現地見学会(1月27日(土) 13時30分)

水野公民館第5集会所(集合)を控え

12月16日に工場跡地附近の草刈り

を中心整備活動を行いました。

80年近くを経て、倒木があったり案内

板が倒壊しているなど、荒廃が進んでい

ます。



新年明けましておめでとうございます

事務局 大橋 正博

本年の正月はいつも増して、数万人の子どもたちが対戦国に連れ去られるウクライナや、「天井の無い牢獄」にいて戦争の巻き添えにされるばかりのガザ地区の人々を始め、社会の歪みの負の部分を負わされざるを得ない世界の子どもたちが、どんなふうに新年を迎えているだろうか？否、無事に迎えることができるだろうか？との想いを巡らしていくと、自分たちだけが当たり前のように、おせち料理やテレビ番組を楽しんでいることに後ろめたさを感じることはなかったかと思えます。

と同時に、この紙面でどれだけこの現状を憂ようとも、それが何の意味も持たないような気になってしまいます。

が、しかし、この紙面が目が届く方、届かない方々がいるように、世界中の紛争・戦争地域の方々にこのメッセージが届く、届かないにも関係なく、まずは"私人"からこの憂いを、今から、これから、何らかの行動や運動に繋げていきたいと決意して、新年のご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願ひいたします。

2024年ご挨拶

事務局 熊谷達也

明けましておめでとうございます。世界ではご周知の通り、去年はパレスチナ・ガザ地区で新たな紛争が勃発し、解決の糸口が見えないロシアによるウクライナ侵攻に加え、過去の大戦前夜をも彷彿とさせる憂うべき事態に陥ってます。歴史を学び解析することは未来への指針にもなり得ます。微力ではありますが、少しでもそのお手伝いできれば幸甚です。今年もよろしくお願ひいたします。

2024年頭に思う事

事務局 芝田政春

ウクライナに続きイスラエルのガザへの侵攻、今地球は人間の産業や生活利便のため、温暖化し人類の未来が危うく、そんな紛争や戦争をしている場合ではないと思うのですが、でも先史に学ばない人達は、同じ過ちを繰り返し、負のスパイラルに落ちて出口の見えない世界に迷っています。私が思うに、祖先から伝え聞いている長島一向一揆の信長による第四次征伐のように、小さな各一揆砦を潰しながら長島城に追い込み、封鎖し兵糧攻めにより力なく降伏して退去し城を出た人達を信長軍が総攻撃をします。しかし一部の人は生き残り、明治の初め官軍の横暴と年貢半減など各約束破りに怒った一部の人が明治4年、今の愛知県碧南大浜陣屋に談判に押し掛けた大浜騒動、これを刈谷藩など近くの藩に鎮圧を明治政府は、させて明治4年に4つの鎮台に兵を置き、各地の反乱や暴動に備え又明治6年には二つの鎮台を増やし東京鎮台、仙台鎮台、名古屋鎮台、大坂鎮台、広島鎮台、熊本鎮台が出来ます。そして明治9年に起きた伊勢暴動には名古屋鎮台の兵が出兵します。

それが大日本陸軍の始まり。

今の日本の自衛隊に望むのは自国民の鎮圧から出発していないので国民の安全を守ってくれるとしたいと思います。

言葉（記録）と心（人間）を蔑ろにする者たちに抗う

—2024年新年に思う—

事務局 寺脇正治

新しい年が明けました。今、この文を書いているのは、2024年1月7日です。新しい年は大変な災害と事故によって始まりました。1月1日の能登半島地震と1月2日の羽田空港のJAL機と海保機の衝突事故です。前者は人治では制御不能の天災であり、後者はヒューマンエラーによる事故で、未然に防ぐことは可能な人災です。いずれも不幸な災害ではありますが、後者の事故ではJAL機の乗務員の冷静・沈着・そして勇氣ある対応で乗客乗員全員の命が守られたことは大変、素晴らしかったと思います。

しかし、この事故についての政府・マスコミの原因究明についての情報発信には、不信を抱くことばかりで、心が休まることはありません。1週間近くも経っていながら、全体像の具体的な説明がなく、担当者の言葉や管制官とのやり取りなど、細切れに出し、あたかも機長と管制官の「聞き違い」、管制官の「不注意」などあくまでも、ヒューマンエラーとして個人の責任にしてしまおうとする意図がありありとわかるからです。それに、こんな事故で素人の「警察官」が事情聴取を行うということにも大きな違和感を覚えます。車の運転でさえ、最近では衝突回避の仕組みが備わっているというのに、「言葉のやりとり」だけであんな重大な事故を招くなんて・・・。

前置きが長くなりました。これからが本題です。21世紀に入りすでに四半世紀が経とうとしています。私たちの会が発足したのが、1990年1月で、ベルリンの壁崩壊の翌年。東西ドイツが統一された記念すべき年です。そして翌年にはソ連邦も崩壊し、米ソの冷戦は終わり「平和な世紀」であるべき21世紀になったのですが、世界は安定するどころか、いろんなところで不安定化を起し、第2次大戦のような大規模な戦争はないものの、内戦やテロ、民族間の紛争等々、とても「平和な世紀」とは呼べるものではなくなりました。ウクライナやパレスチナなどはもう何年も前から始まっていたのです。9・11の同時多発テロの報復として、アメリカは国連を無視してアフガン、そして大量破壊兵器を口実にイラクを攻撃しました。イラクの民間人の犠牲者はパレスチナのそれ以上でした。しかしアメリカを支援した日本は未だに、その失敗を認めないでいます。

遠い国のことは、私たちでは何ともできないことです。でも自分の国のことは、やりようではなんとかできる可能性があります。今、「武力」による抑止力が必要だという声はロシアや中国の動向によって「政権」を中心に強くなっていますが、過去をきちんと学べば、武力によっては相手の武力を完全には封じ込めることができないということは明白です。例を挙げるなら、あの世界一の軍事大国アメリカは「9・11」の攻撃に無力でした。イスラエルはなぜ「ハマス」の攻撃を阻止できなかったのでしょうか。「敵が攻めてきたら、どうするのか？」と問う前に「戦争にならないようには、どうするのか？」という問いが必要なのではないのでしょうか？そのためにまず一番大切なことは、「何があった（ある）のか情報を正確につかみ、記録し、そしてきちんと伝えること」に尽きると考えます。

我が国の今のリーダー達は、「自分たちにとって都合の悪い」ことは、改竄、隠蔽、抹消と「なかったこと」にしようとしています。これはあの戦争時代とまったく変わりありません。先々代の首相は自分の発言により、国会の議事を何カ月（何年？）もストップさせました。しかしある人は「いつまで、そんなこと（追及）をやっているのか？もっと大事なことがあるだろう。」と追及する側を批判しました。まったくおかしい話です。きちんと具体的に説明すればすむことなのに、「回答を差し控えます」とか「あなたに言うことはない」とか、極めつけは「私がうそをつくはずがない。」とか言って、はぐらかし「うやむや」にしてみました。その流れは今もまったく変わらず、昨年8月30日の官房長官の言葉にも啞然としてました。関東大震災における流言による虐殺事件について「事実関係を把握できる記録は見当たらない」とか「国立公文書館は政府内というのは疑問」とか、とにかく開いた口が塞がらないという状態・・・

言葉（記録）と心（人間）を蔑ろにする者たちに抗うために今年もがんばりたいと思います。

みなさん、どう思われます?⑫

～地下工場跡地の陥没穴や溝は戦争遺跡か?～



旧愛知航空機の疎開工場である地下工場跡地で遺構として存在しているのは、当時の入口であるコンクリート部分が5カ所と、第2区の尾根伝いに水槽が残っているだけです。コンクリートの部分はいずれも奥行きが10mで幅が2m、厚さは28cm～30cm程度で、入口が完全に見えるのは第2区第10坑(写真⑤)のみです。あとの4カ所は、土砂が流入したり、土砂で埋没したりして、全体像が確認できません。また2005年には瀬戸市教育委員会が50万円で5カ所の入口すべてに頑強な鉄パイプで柵を設置し、内部にはまったく入ることができません。1945年8月当時は、この地下工場群は5区あり、総延長が4kmほどの規模でしたが、第4区、第5区は、粘土採掘のために完全に破壊されてしまいました。現在は1区2区の区域が残っているだけです。

他の地域の現存する地下壕では崩落の危険性はあるものの、内部がしっかり残っているところも少なくありません。また柵などで塞がれているところも施錠を外せば調査が可能なところもたくさんあります。瀬戸の場合は10mも入れないのです。地下トンネル工場の存在は入口のコンクリート部分でしか確認できません。このように残された遺構が極めて乏しい状態の中で、他に工場跡の存在を確認できる手立てはないのかと考えると、唯一存在するのが、地上に現れたトンネルの「陥没跡」なのです。陥没の状態は「おわん型の陥没穴」(①②)か「谷筋のような陥没溝」(③④⑤⑥)です。下の写真の矢印は地上面の高さを示しています。前頁右側の図で灰色で示した部分が、その概念図です。なお陥没溝(③、⑥)にはまだ入口付近の遺構は見つかっていませんが、土砂に埋まっている可能性も否定できず、今後の調査に期待したいと思います。(寺脇)



南側 ①第2区尾根沿いの陥没穴



北側 ②第2区尾根沿いの陥没穴



③第2区第11坑の陥没溝



④第2区第10坑と陥没溝



⑤第1区第7坑と陥没溝



⑥第1区第8坑陥没溝

今年の取り組み(決定・予定・希望)

詳しくは次号で発表します

行事

- 1月27日 現地見学会 (決定) 3月31日 春の戦跡見学会 (田原市) (決定)
- 4月? 第3回愛航研究会「愛知航空機と紫電改」 8月? 第32回総会
- 8月15日~18日 あいち平和のための戦争展 (決定)
- ピースフェスティバル イン セト 「戦争体験を語り継ぐ会」 未定

研究会・交流会他

- 8月17日~19日 戦跡保存全国ネットワークシンポジウム
- 8月24日~25日 空襲戦災を記録する全国連絡会
- 12月第2日曜 空襲戦災を記録する東海交流会

記録・調査

- ・瀬戸市戦跡マップづくり調査
- ・名古屋空襲被害者名簿 エクセル入力作業

他

名古屋空襲被害者(徴用者)名簿全1922頁分をデジタルコピーしました。



ボランティア募集します

6月9日愛知時計を襲った空襲①

堀口秋彦 記

愛知時計電機ご出身で愛知時計に詳しい堀口秋彦さんから、ご自身で調査記録された「20・6・9 熱田空襲の概要」令和5年5月記の手記を頂いたので連載で掲載します。勤務された会社の記録として、大変貴重な資料です。

堀口さんは、昭和9年生まれ、戦後に愛知時計電機に入社、瑞穂工場の設計部門で、時計機器や防衛庁関連機器を担当。愛知時計ならびに、そこで生産された過去の製品・遺構について「産業遺産」として調査記録されています。事務局 寺脇

20・6・9 熱田空襲の概要

昭和20年6月9日、終戦2カ月前の時の記念日前日、名古屋市熱田区の船方に所在していた海軍兵器製造の工場群への米軍重爆撃機B29の爆撃は、名古屋空襲最大の修羅場地獄となつた。

1, 工場群

名古屋市熱田区の熱田神宮から西南方1km先に、海軍兵器を生産する愛知時計電機本社工場（魚雷、機雷、魚雷発射管、艦砲射撃盤、砲弾用信管、包囲盤通信機などの製造会社）、愛知航空機船方工場（艦上攻撃機「流星」の機体組立、航空機試作、試験、原図工場）、愛知航空機熱田発動機製作所の三

工場群があり、2万4500人余の従業員（会社職員、工員、徴用工員、学徒動員、女子挺身隊員、兵士達）が勤務していた。

2, 勤労員

当時は朝7時から夕方7時迄の12時間通常作業の他、夜間勤務も多く、決戦態勢の生産活動であった。

徴用工員は国家総動員法によって、国民徴用令で強制的に軍需工場へ動員された白紙召集の人達である。学徒動員も国家総動員法により、国民学校高等科（現在の中学校）1年生から中等学校、高等女学校（現在の高校）、専門学校、大学に至るまでの男女生徒学生が、学徒勤労動員として軍需工場へ、女子挺身隊は25歳未満の未婚女子の勤労動員で全て軍需工場へ駆り出された。

3, 当日天気

爆撃のその日は、梅雨に入る暑い日で、天気は快晴であった。20.8℃、最高気温26℃、北西の風1.8m、雲量4.6、日照時間13.2H、男子は脚絆ゲートル（足の脛に巻き付ける細長い布）を巻き、戦闘帽・鉢巻姿で通勤し、女子はモンペ（戦時中、着物の袴をズボン状にした物）を着用し、防空頭巾（頭にかぶる袋状の綿を入れた布製）を持参していた。工場の

職場は、青壮年工員達は、徴兵召集で軍隊に出征しており、若干数の指導工員の下に、徴用工員と愛知時計電機青年学校の養成工、学徒動員の未成年の生徒・学生達と女子挺身隊の乙女達が、各職域で勤務していた。

4, 当時期

工場の製造機械設備は信管や雷道計など小物類が、岐阜県養老郡や笠松町、奈良県天理へ疎開を始めており、魚雷主機関も瑞浪区堀田の東洋機械会社へ移転していた。愛知航空機も愛知県瀬戸地下工場や福井県、岐阜県へ疎開が始まった。愛知時計電機は本社船方工場の他に明徳工場、瑞穂工場、海軍兵器製造をしており、愛知航空機は名古屋市港区の稲永工場が主力工作所で艦上爆撃機・彗星、零式水上偵察機、特殊攻撃機・晴嵐などを生産していたが、昭和19年12月7日、東南海地震（マグニチュード8.0。震度7）名古屋南部地域の軍用機生産地・三菱航空機、愛知航空機、半田中島飛行機の工場が被害）と昭和20年1月13日、三河地震（マグニチュード7.1、震度7）西尾・一色地方、震度5（名古屋南部）の2回にわたる地震で、製造機械設備の治具が損害し、航空機の生産はいちじるしく減退した。

5, 警報?

昭和20年6月9日、午前8時25分・名古屋市の西側にあった東海軍管区司令部本部防空庁舎の東側に爆弾が降下した。午前7時45分に警戒警報を発令し、8時24分に空襲警報を発令した直後の事である。米軍B29編隊の1機が偵察のため、爆撃行編隊の先導として、伊吹山方面から南下していたのである。

（次号へつづく）

次頁は堀口さんが作成され昭和20年当時の愛知時計電機は位置図です。



愛知時計電機

本社工場
：配置図
(昭和20年)

工場配置は明徳工場への移動及び狭間等により
確定出来ないものがあります。



現在、九一新工場
「工場の建設は、戦中の用地
工場の妥をとのめしている。」



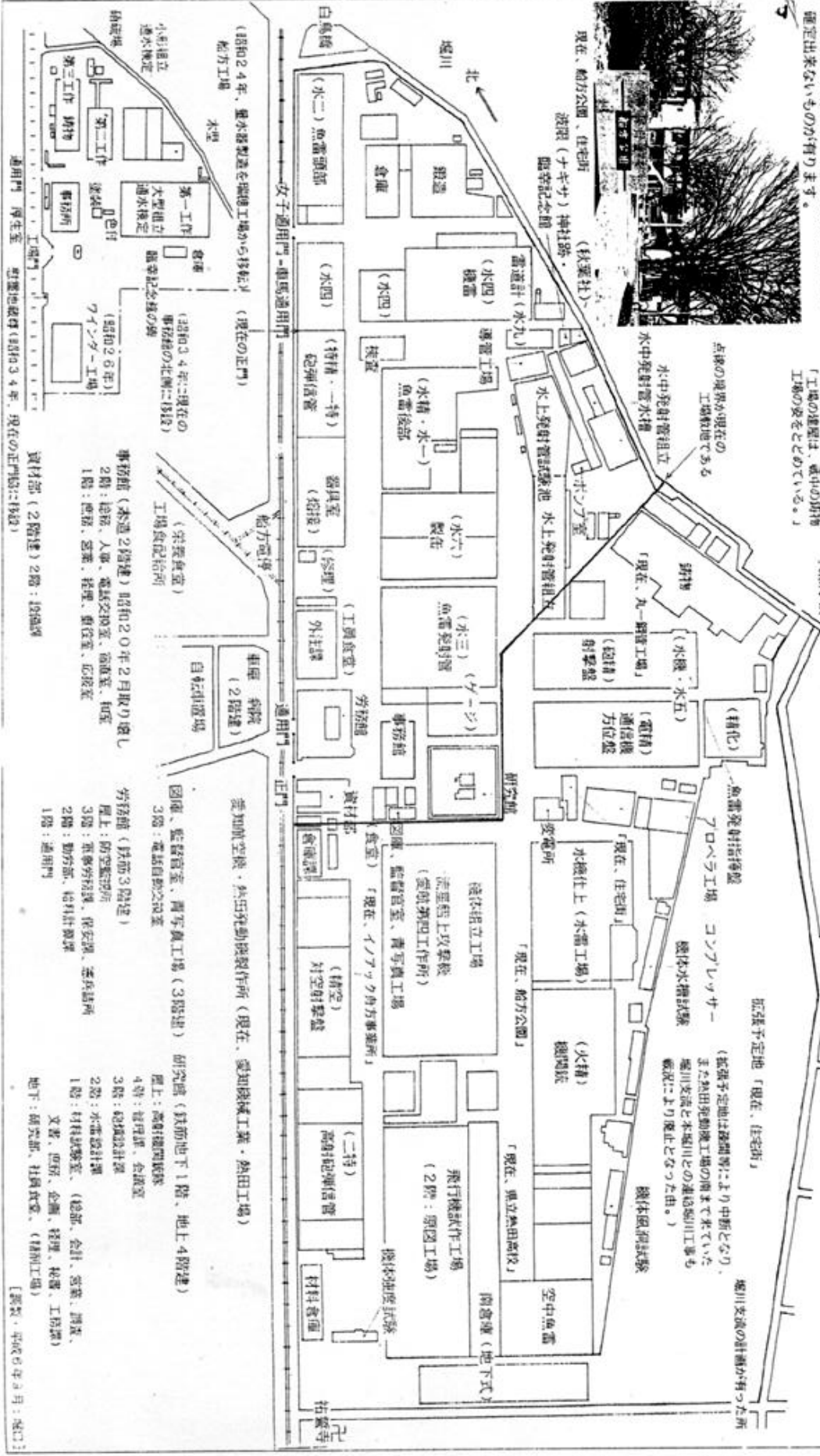
現在、イノツク舟方事業所



現在、単立熱田高校



現在、船方公園、住宅所
波限(ナキナ)神社跡、
監査記念館



昭和24年、量産製造を現場工場から持ち帰り(現在の正門)
船方工場 木型
第一工作 大型組立 通水機定
第二工作 封付 送気口
第三工作 封付 事務所
小形組立 通水機定
船塀

昭和34年、現在の
事務館の北側に建設
倉庫
事務館北側の塀
工場敷地拾分

昭和26年、
ライオン工場
資材部(2階建)2階:1350坪

事務館(本造2階建)昭和20年2月取り壊し
2階:総務、人事、電氣交信室、倉庫室、相室
1階:庶務、空室、総務、倉庫室、配役室

車庫 新築(2階建)
自転車置場

労働館(鉄筋3階建)
3階:電話自動交換室
2階:勤務部、給料計算課
1階:通用門

愛知航空機・熱田発動機製作所(現在、愛知機械工業・熱田工場)
研究部(鉄筋地下1階、地上4階建)
1階:高射機調整隊
2階:総務課
3階:総務課
4階:管理課、倉庫室

研究部(鉄筋地下1階、地上4階建)
1階:材料調整室、(総務、会計、庶務、調査、調査、調査、調査)
2階:水雷設計課
3階:材料調整室、(総務、会計、庶務、調査、調査、調査、調査)
4階:材料調整室、(総務、会計、庶務、調査、調査、調査、調査)
地下:研究部、社員食堂、(印刷工場)

【調査、平成6年3月、竣工】

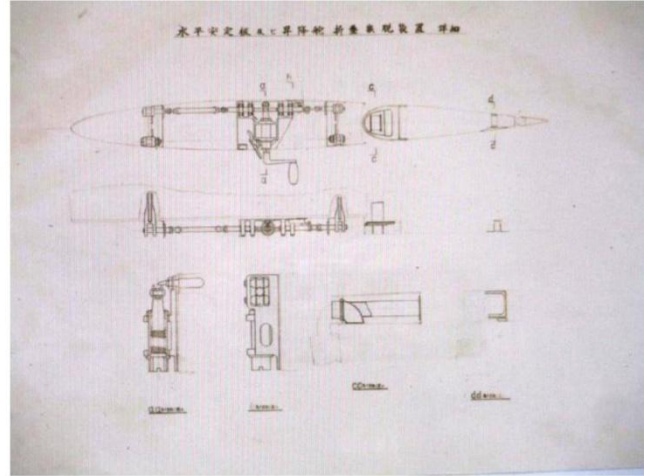
写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第12話

愛知航空機研究家・渡辺哲国

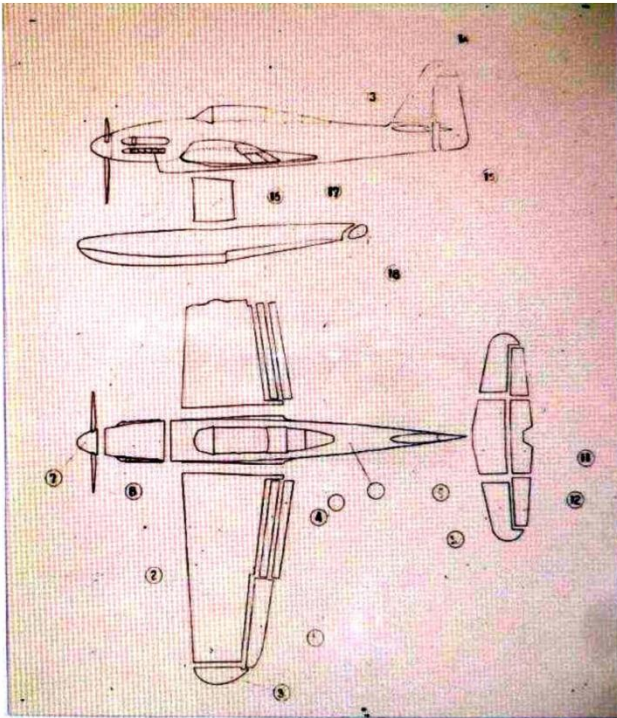
12. 尾部翼

1996年末、胴体、操縦席・偵察席、及び発動機回りの修復は70%近く完了し、尾翼部分が着手された。この部分はマツが担当し調査を開始したが、昇降舵、方向舵は長期間の屋外保管により羽布が破れ、小骨(リブ)などの構造部材にひどい腐蝕が発見され、一部は再製作された。

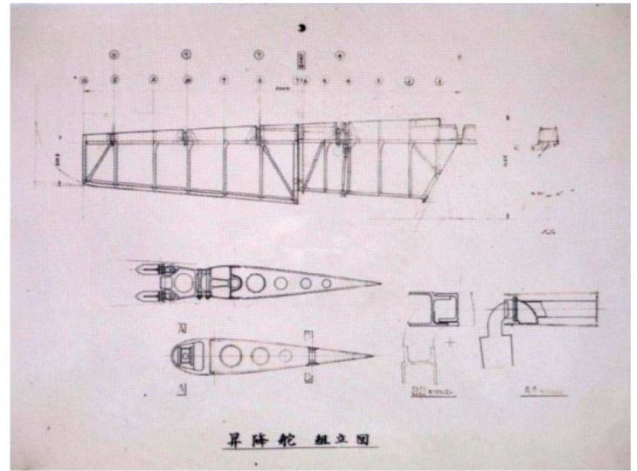
次号へつづく



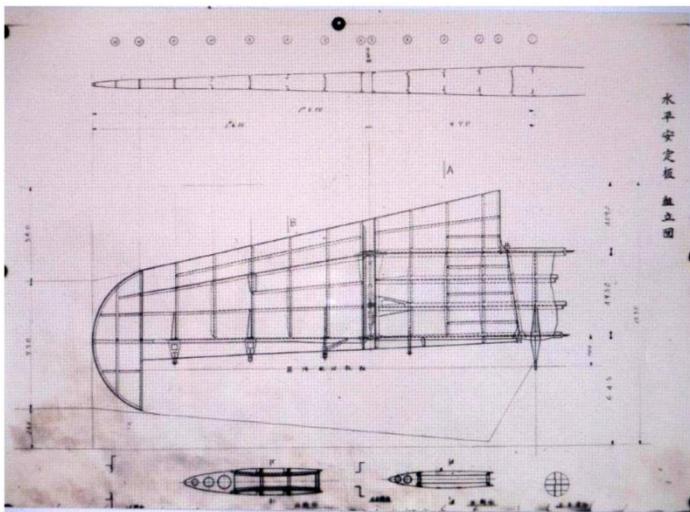
③水平安定板及び昇降舵折畳嵌脱装置詳細図



①晴嵐各構成要素(コンポーネント)分解図・尾翼は垂直尾翼・垂直安定板と方向舵、水平尾翼は水平安定板と昇降舵で構成され、各々に折畳展張機構がある



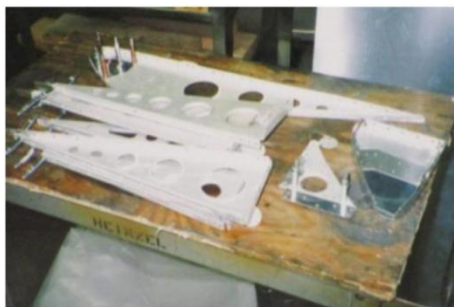
④昇降舵組立図



②水平安定板組立図



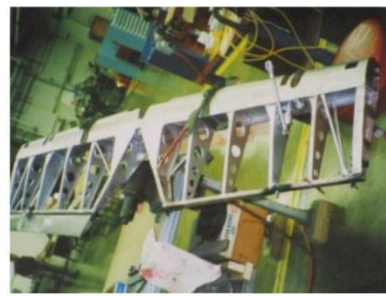
⑤腐食の酷い方向舵



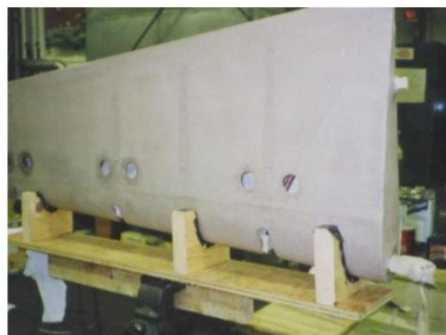
⑥



⑦



⑧



⑨

⑥、⑦、⑧、⑨
修復中の昇降舵



⑩ 試作機方向舵骨格



⑪ 羽布張りの終了した方向舵



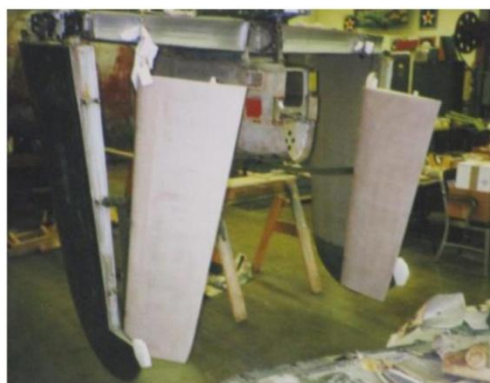
⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

⑫、⑬、⑭、⑮、⑯ 昇降舵と方向舵の組付けと折畳展張テスト



みなさまからのメッセージ

前略 内田樹氏のツイッターに「緊急事態条項」についての記事がありましたのでお知らせします。

12月26日

「緊急事態条項」は草案の第9章です。よく読んでください。内閣総理大臣が「緊急事態だ」と判断したら、それだけで「緊急事態」なんです。内閣の発令する政令が法律に代わる。人権は「配慮される」だけ。選挙がないので終身議員たちが100日ごとに承認すれば緊急事態は未来永劫に継続できる。

12月26日

自民党が考えている緊急事態条項がどういうものかは、自民党の改憲草案に明記してあります。とにかく読んでください。こんなものが通ったら「おしまい」です。

https://storage2.jimin.jp/pdf/news/policy/130250_1.pdf

12月26日

市民が立ち上がって「緊急事態宣言を解除しろ」とデモをすれば、内閣は当然これを「社会秩序の混乱」と認定します。つまり「緊急事態の発令は不当だ」という民意の表示そのものが「緊急事態発令を正当化する」という悪魔のような仕掛けなんです。

「2024年1月に改憲発議が予定されている。」というものもあります。

岸田が首相の任期中に 憲法改悪を企んでいるようです。とんでもないことです。

詳しくは [ここ](#)です。

<https://twitter.com/pinknekotaro/status/1738215942717624471>

いよいよ開戦前夜が近づく気配がします。おそろしいことです。

広島市 船津宏

編集後記

保存する会にとっては35年目の年が明けました。三が日の間に大変大きな災害・事故があり、世界の状況と相まって暗い新年となりました。しかし、乗客を守ったJAL機の乗務員の活躍や、裏金捜査を追求する地検に姿勢には、今までの年にはなかったような勇気をもらえるような気がします。ただこれが「しっぽ切り」に終わってしまわないことを祈るばかりです。そして支持者が急落しているにも関わらず、憲法を守らなければならない立場にありながら未だに公然と「改憲」を口にする首相には恐怖を感じています。マスコミがほとんど取り上げない「自民党の憲法草案」は大変、恐ろしいものです。国民を権力から守る現憲法とは真逆の国民を縛る悪法だということを多くの国民は知りません。ぜひ関心を持っていただきたいです。

2024年1月10日 (T)



第39回東海交流会 12月10日(日)

ピースあいち

会場32名 ズーム18名 報道4社参加

今回の東海交流会は第一部として午前中に「パンプキン特集」として3件の報告がありました。そのうち2件は20代の報告者でパンプキンに対する関心の高さを表しています。いずれにしても米軍資料が記録することの重要性を表しています。会としては寺脇が2023年の活動を報告しました。名古屋市教育委員会の学芸員である伊藤厚史さんより「市よりも県に史跡認定を要請した方が良いのでは」とアドバイスをいただきました。(寺脇)